

2019年

1月のカレンダー

学びの広場

みんなのちからで30年

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
						書道① 12~2時 書道② 2~4時 人形劇 4~6時 三味線 6:30~8:30
6	7	8	9	10	11	12
			ボランティア	スタッフ ミーティング 10~2時	金曜日 9時半~4時 お菓子	青年の会 初詣
13	14	15	16	17	18	19
		ちびっこ あーとぼっくす 10~12時		スタッフ ミーティング	金曜日 オレンジ	織りもの10~12時
20	21	22	23	24	25	26
	カラオケ&ダンス 10時半~2時半		ボランティア	スタッフ ミーティング	金曜日 織りもの 歌声ひろば 6:30~8:30	青年の会 ダンス 4:30~6:30
27	28	29	30	31		
		ちびっこ あーとぼっくす		スタッフ ミーティング		

☆12/16のフェスティバルには多くの方々のご参加ありがとうございました。
本年もどうぞよろしくお願いたします。

☆ ☆ ☆ ☆
*学びの広場は1/5から開いています。
*月曜のダンスは3週目1/21です。



人形劇



玉川上水にて
11/9



クリスマスキャンドル



青年の会で作って
会場に飾りました。



◎毎月のカレンダーはHPにも掲載しています。
(スマホ可 QRコード*できました)

◎書き損じや余った年賀はがき、未使用のテレカ・商品券などがありましたら、お譲りください。ひろばの通信費等になります。

学びの広場

TEL&FAX 042-322-7160

H P <http://manabinohiroba.com/>

E-mail hiroba@pop17.odn.ne.jp





フェスティバルから



城の歌、三つ



明治以来今日までの150年の間で、代表的な「城の歌」を三つあげよといわれたら即座に次の三曲をあげるだろう。明治が滝廉太郎の「荒城の月」、昭和が三橋美智也が歌った「古城」、そして、平成が氷川きよしの「白雲の城」である。

とりあえず作曲者や歌手の名前を冠したけれど、ここでは作詞者に注目したい。土井晩翠、高橋掬太郎、松井由利夫であるが、「古城」は「荒城の月」を、「白雲の城」は、前二者をそれぞれリスペクトした上で作られていることが歴然としているのである。

「荒城の月」は夜の城跡のたたずまいを、「古城」は昼、そして「白雲の城」は昼と夜というふうに変えつつも、共通している言葉が多いのである。「月」、「松」、「病葉」、「くずれしままの石垣」と「こけむすまの石垣」、「鳴きゆく雁」と「空行く雁」などなど、他にもあるかもしれない。

三曲ともにテーマは同じだろう。「無常」。時が移り、かつて在ったものが今は無い。今あるものもいずれ無くなる、という理解でいいのだろうか。お城の跡というのは、その意味では格好の歌材なのだろう。「歌」というのは歌謡曲のみでなく、和歌(短歌)、そして俳句も含み、我々の「歴史的な心情」を表現しているものと考えたい。西行を慕い「奥の細道」を旅した芭蕉も奥州平泉の古戦場跡で「兵^{つわもの}どもが夢のあと」と詠んだではないか。

以下、宣伝になるけど、二月の日曜喫茶ミニコンサートでは、「戦後の歌謡曲・その1」として、私・凧野穹がギター弾き語りをやらせてもらいます。

昭和20年代前半を、「歌は世につれ」のフレーズにそった形でたどってみたいと思います。よかったらお越し下さい。

(加藤)